

## 1 野外環境学習活動の流れ

### 環境学習のねらい

野外環境学習活動（以降、「環境学習」と表記します）のねらいは、環境について学び、体験することで自分と環境との関わりに気づき、環境のために行動できるようになることにあります。

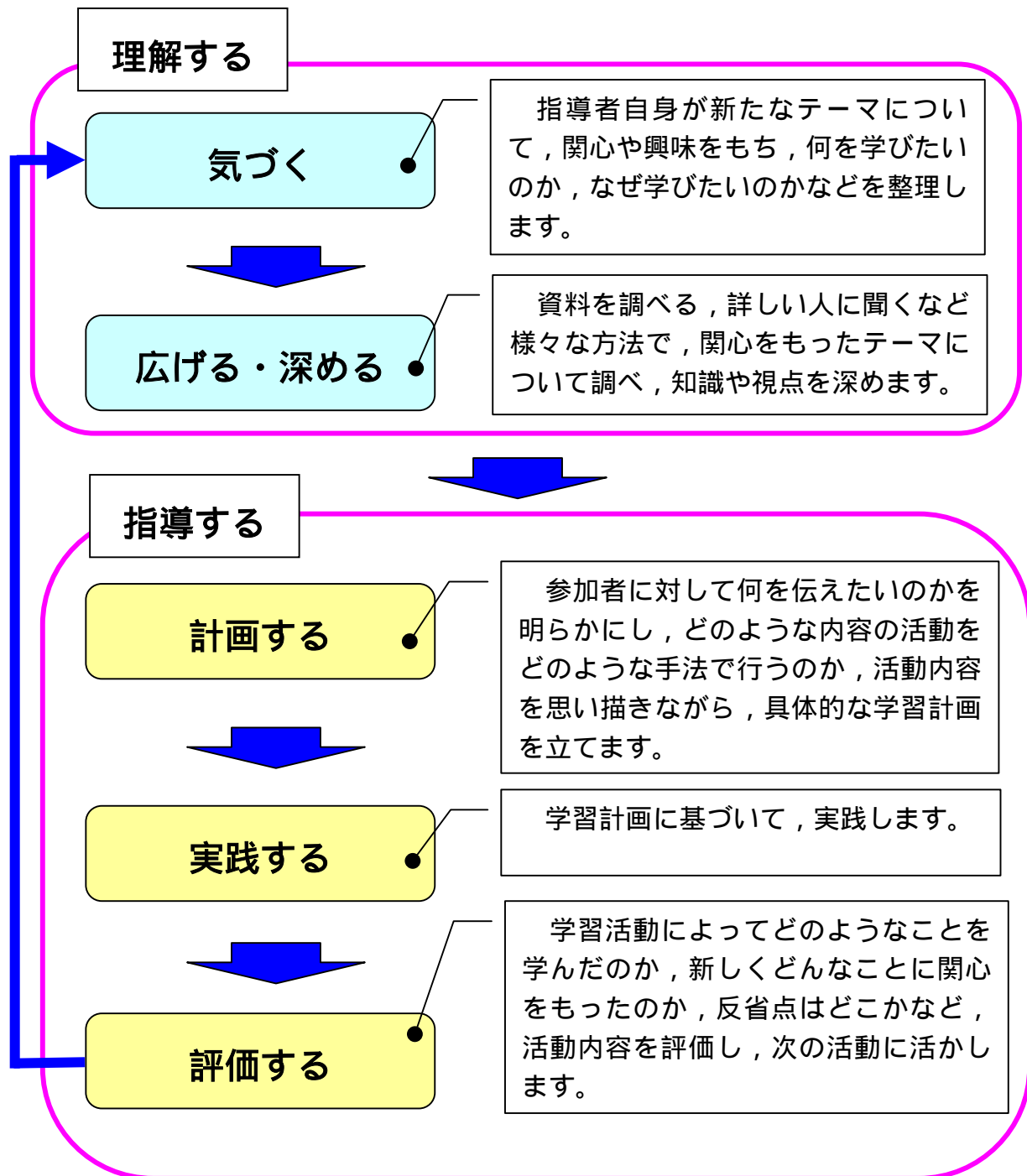
環境学習は、一度実施したらそれで終わりではありません。環境学習に携わったすべての関係者が、単に環境についての知識を増やすだけでなく、活動した内容を次の環境学習や普段の生活・行動に活かせるようにすることが大切です。

環境学習の指導者は、より良い活動内容となるように、環境学習のねらいや流れを理解し、学習プログラム実施時には、対象者や指導者の目的や背景を意識しながら、環境学習の展開を考えていくことが望まれます。



## 環境学習の指導の流れ

環境学習の指導者は、指導者自身の環境学習への理解を十分に深めるとともに、指導者としての技術を充実させながら学習を進めていくことが大切です。



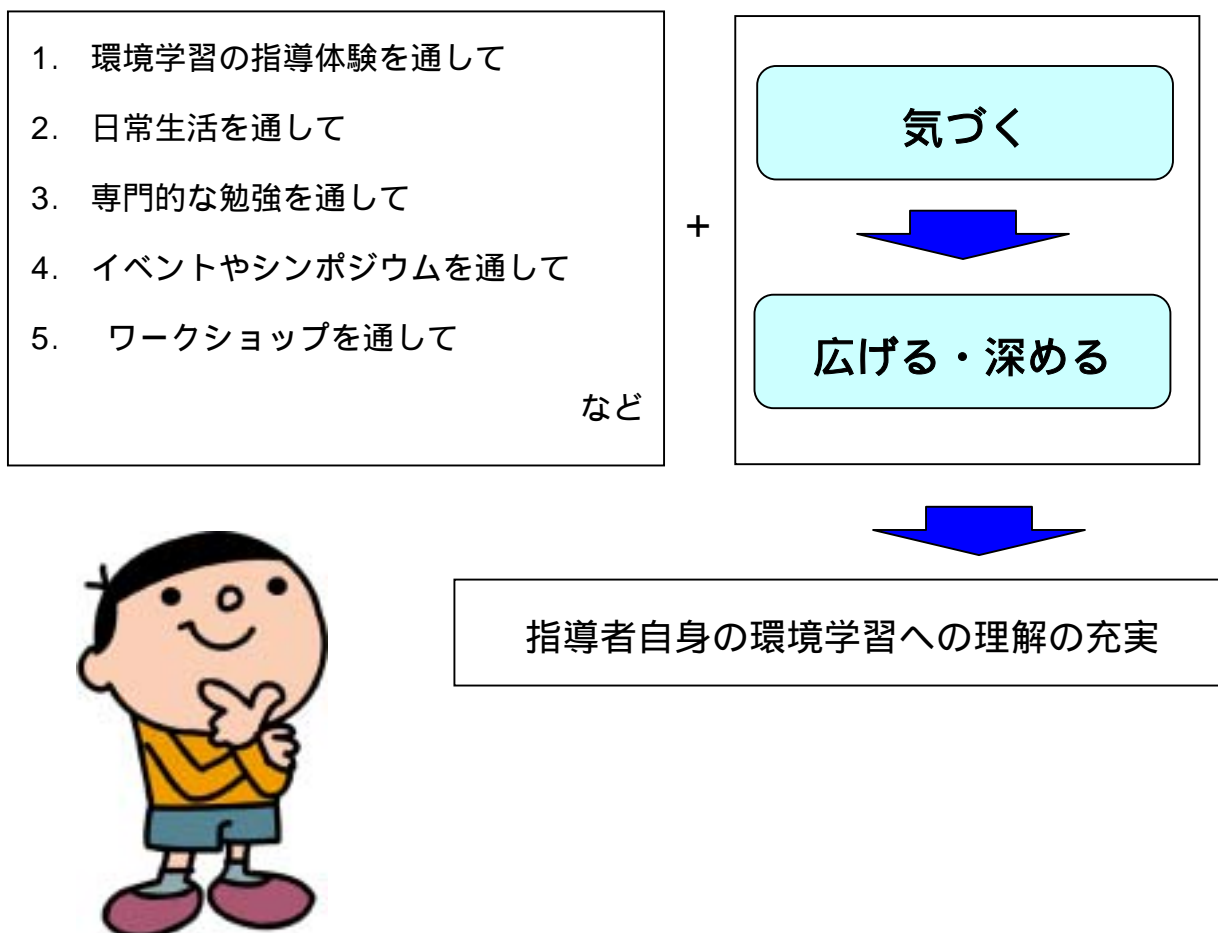
## 2 環境学習の指導方法

### 気づく，広げる・深める

環境学習において，良き指導者とは，知識の多さや専門性のみで判断することは出来ません。「良き指導者は良き参加者」と言ってもよいように，常に新しい視点や発想を持って活動に取り組んでいる人が指導者として望まれる傾向にあります。

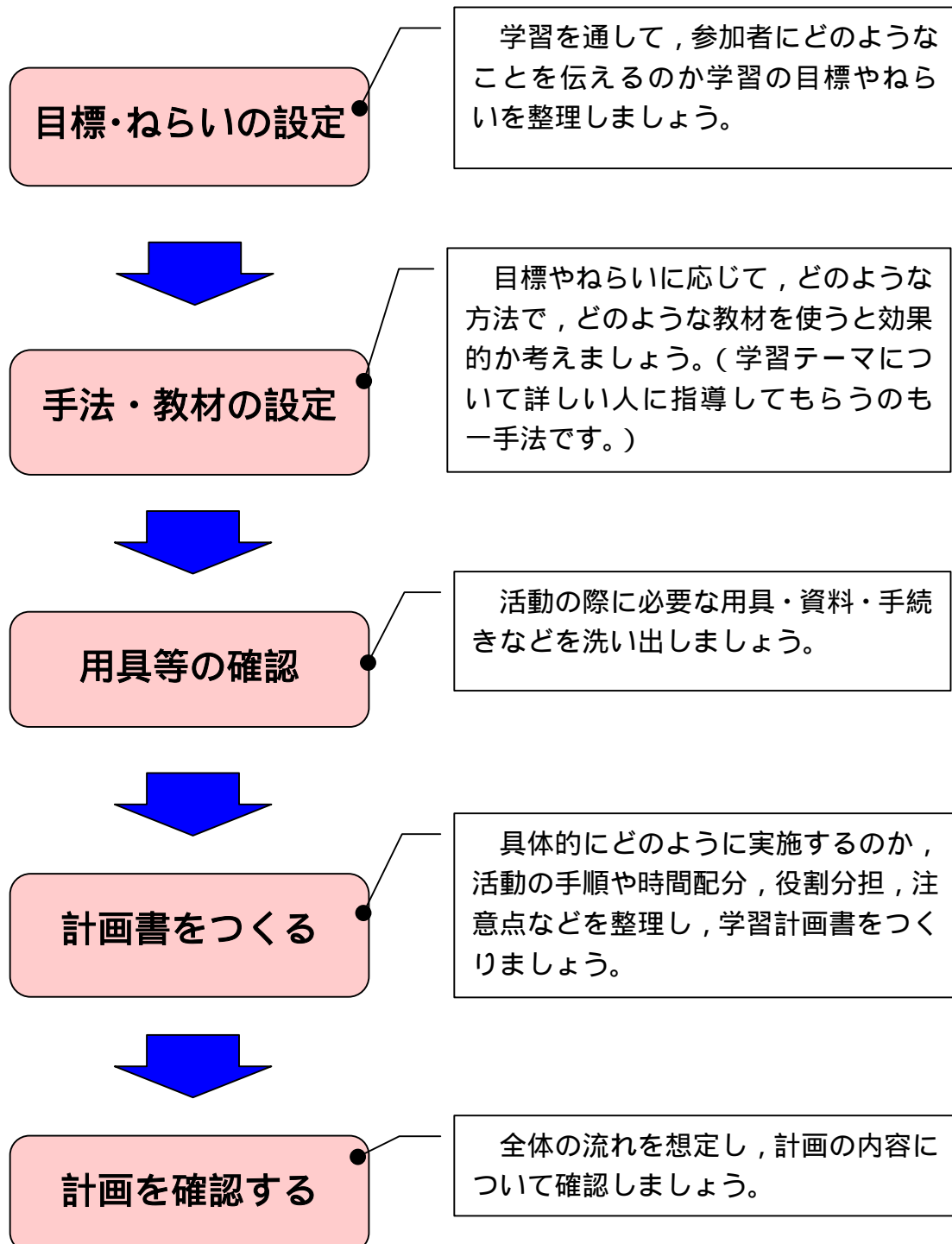
しかし，指導者である以上，参加者の満足感や達成感を高めるために，ある程度の知識や，様々な体験による学習の場の設定は重要です。

そこで，指導者は，気づく 広げる・深めるという指導者自身が「理解する」過程も充実させる必要があります。主な「理解する」過程の充実方法としては，以下のような場面が考えられます。



## 計画する

指導者は、実施する環境学習を参加者にとって実りあるものにするために、それぞれの活動にあった具体的な学習計画をたてる必要があります。

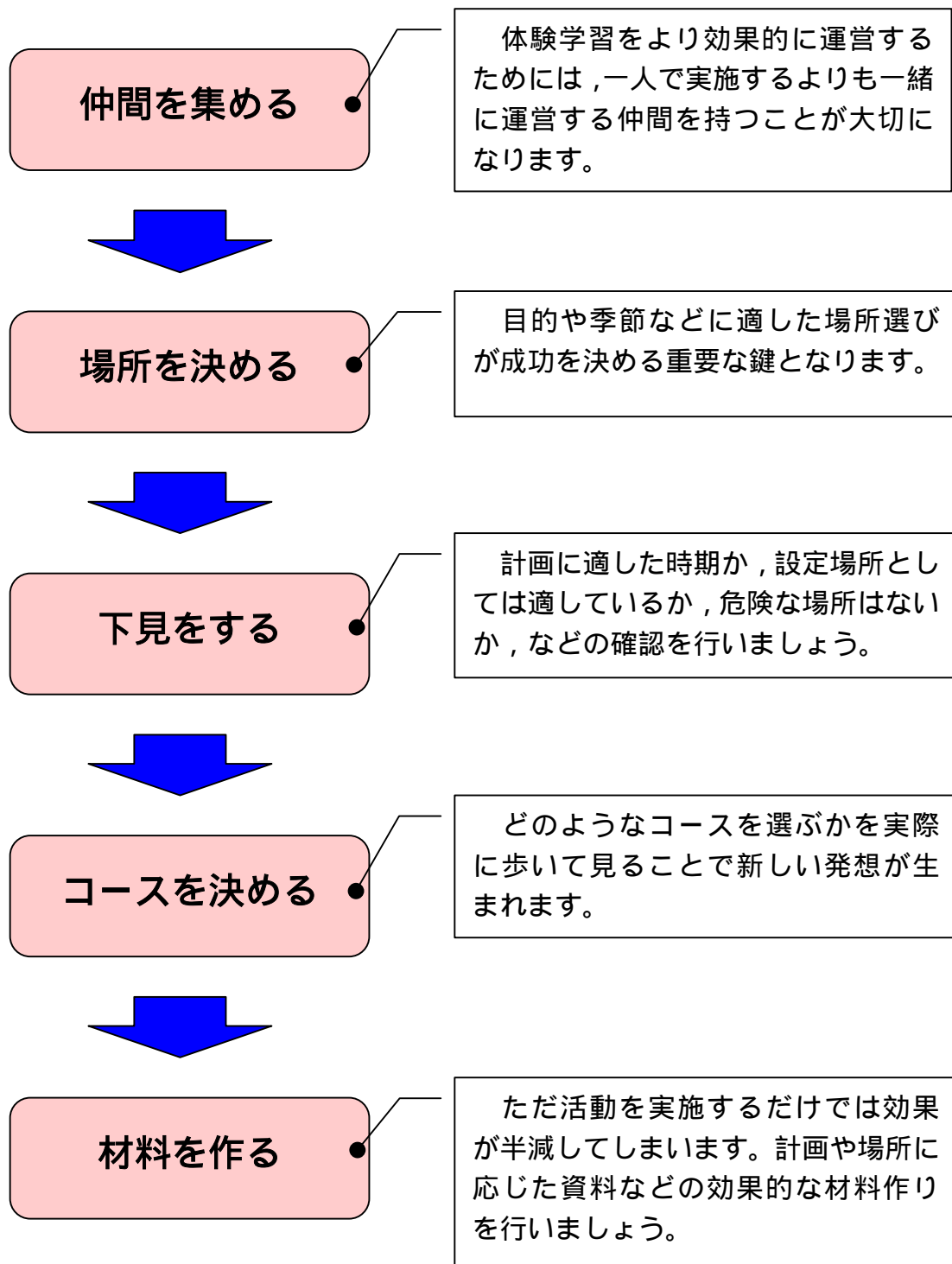


学習計画書の例

テーマ	草むらの「春」を探そう			
日時	年3月5日(日) 10:00~11:30			
場所	地区内の田んぼ周辺			
参加者	子ども会 親 5名 子ども10名			
準備	参加者に配る資料		その他	
	調査票, 筆記用具, クリップボード			
時間	場所	実施内容	実施方法	
10:00	10分	あぜ道のところ	集合・参加者確認 あいさつ 調査票の配布 説明	説明: さん
10:10	20分	田んぼのあぜ道~田んぼ	生き物探し	親子で組になって探す。
10:30	10分	あぜ道のところ	見つけた生き物の報告	報告は子どもがする。
10:40	40分	田んぼのあぜ道~田んぼ	生き物の説明と観察	全員で観察する。  説明: さん  観察したものを調査票にスケッチする。  分からなかったものに名前をつける。
11:20	10分		まとめ・宿題	まとめ役: さん  見つけた生き物を振り返って、他の場所でも探してみるように話す。  分からなかった生き物については、調べることを子どもたちの宿題にする。
11:30			終了・解散	

## 実践する

環境学習をより効果的に展開するためには、実際に活動を実施する前に、実施場所での入念な準備と本番を想定した場面毎の打合せが重要になります。



どのような環境学習になるかは、指導者の準備や実施時の心構えで変わります。

以下のような参考チェックリストを用いて有意義な活動としましょう。

活動実施前に、再確認を行いましょう。

準備用チェックリストの例

項目	内容	チェック欄
打合せ	コース	
	担当者確認	
	移動方法確認	
	参加者確認	
	集合場所・時間	
	場所・施設（トイレなど）確認	
	.....	
持参品	救急道具	
	筆記用具	
	地図	
	.....	

活動実施時に各項目を確認しながら進めましょう。

実施状況チェックリストの例

項目	内容	チェック欄
解説	話し方は適切か	
	下見時と同様な状況か	
	場所の特徴を説明しているか	
	ねらいをきちんと伝えられているか	
	.....	
作業	参加者と交流出来ているか	
	参加者への気配りは出来ているか	
	時間管理が出来ているか	
	安全管理が出来ているか	
	.....	
気づいたこと	仲の良い人だけの交流が多い 他の方との交流も促す必要あり ゲームを使う、グループ分け？	
	トイレの場所が少ない 事前周知必要	

指導中に気づいたことを書き留めておきましょう。

## 評価する

環境学習における活動では，実施した後にその活動内容について振り返り評価することによって，次の行動や取り組みを改善していくことへ結びつけることができます。

### 評価のポイント

評価ポイント	内 容
学習効果	学習のねらい・目的にあった内容になっていたかどうか，参加者の感想などを参考にしながら振り返ります。
準 備	スタッフの役割分担が上手にできたか，用具や手続きなどの準備はきちんとできたか，連絡体制，安全管理などは充分だったかなどを反省します。
実 施	プログラムの進行が上手にできたか，スタッフの役割分担はきちんと遂行できたか，時間配分に無理がなかったか，予測していなかった事態に対して対処できたかなどを振り返ります。
次に活かすこと	上記の評価ポイントにおける反省点を踏まえて，どんな点をどのように改善すれば良いか，また，活動を通してどんなことに興味をもち，次回どのようなテーマ・内容の活動を行いたいかなどを整理します。





ふりかえりシートの例

テーマ	草むらの「春」を探そう	
日時・場所	年3月5日(日) 10:00~11:30	地区内の田んぼ周辺
記入者		
チェックポイント	評価内容	
	よくできたところ	よくできなかったところ
<b>学習効果</b> 学習のねらい・目的にあった内容になったか、参加者の感想はどうだったか。	子どもも大人も楽しく観察できたと思う。 「寒いけど、もう春なんだね」という感想があった。 オオイヌノフグリは、全員が覚えた。	生き物について、もう少し説明ができれば、それぞれの生き物について覚えやすかったと思う。
<b>準備</b> スタッフの役割分担、用具、手続き、連絡体制、安全管理などは充分だったか。	安全面はよく気をつけた。 転んでひざをすりむいた子もいたが、すぐに手当でもでき、特に問題はなかった。	集まる場所は、もう少し広いところが良かった。 生き物の特徴をもっとよく調べておけばよかったと思う。
<b>実施</b> プログラムはうまく進められたか、様々な状況に対応できたか。	予定どおり進行できた。 説明が十分にできない生き物があったが、その分、みんなでよく観察できたと思う。	途中であきてしまう子どもがいた。もっと楽しめる工夫が必要だったと思う。
<b>次に活かすこと</b> 改善点、次回につなげたいテーマ、活動内容など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集合場所は、人数を考えて決めること。</li> <li>・ 次回行うときには、もう少し知識を増やし、子どもがあきない工夫をしたい。</li> <li>・ 違う季節にもやってみたい。</li> </ul>	

### 3 安全管理とマナー

#### 安全管理

野外における環境学習には、様々な危険が潜んでいます。そのため、楽しい活動も怪我や事故、マナー違反などで台無しになってしまう恐れがあります。楽しい活動とするために、万全の準備を心がけましょう。

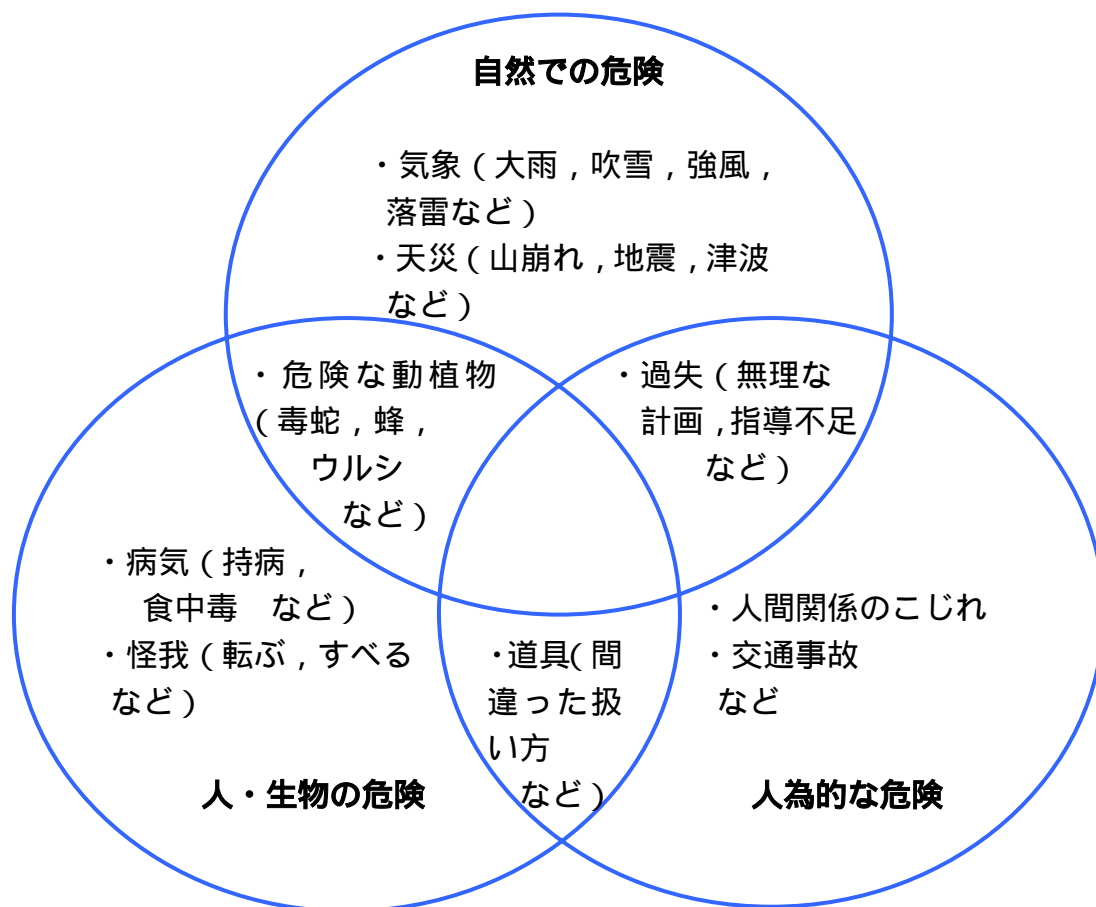


図 野外における環境学習時の危険の可能性



野外での環境学習を実施する際には、開催場所や参加者に応じて注意点が異なってきます。そのため、開催ごとに安全管理に関する確認や見直しが大切になります。

### 事前のリスクチェックの例

	項目	内容	チェック
計画時	開催場所把握	危険な場所	
		ルート	
		危険な動植物	
	対象者把握	持病の有無確認リスト	
		年齢層把握	
		必要な医薬品持参	
	組織体制・役割分担理解	移動時の配置	
		緊急体制	
		連絡体制	
		救急班設置	
	保険関連事務手続き	保険手続き案内資料	
保険の種類など確認と手続き			
.....	.....		
事前説明時	服装・持参品確認	季節・場所・内容の説明	
		特別な医薬品の持参	
		連絡体制の説明	
	疾病等確認	病歴の確認	
	保険の説明	内容説明	
		手続き案内	
.....	.....		
実施時	気象状況	実施決定	
		現場予測	
	危険箇所	再確認	
		体制確認	
	実施	人数確認	
		持参品確認	
		体調確認	
		スタッフ配置確認	
.....	.....		

## マナー

自然に親しむには、自然や人に対するマナーや思いやりが大切です。参加者の心を潤すことができるような指導を心がけましょう。

### 動植物へのマナー

- ・動物を驚かさない
- ・動物に食べ物を与えない
- ・動物に危害を加えない
- ・植物をむやみに取らない
- ・危険な動植物に近づかない  
など

### ひとへのマナー

- ・いたづらをしない
- ・ものなどを投げない
- ・助け合いの気持ちを持つ
- ・大声を出さない
- ・危険な場所等を教えあう  
など

### 地球や生きもののためにできること

- ・使い捨ての物をなるべく使わない
- ・ごみは各自で持ち帰る / 落ちているごみを拾って帰る
- ・環境にやさしい移動手段を取る
- ・自然に関する興味や知識を持つ

など



これまでに例に挙げた項目以外にも、たくさんの注意事項があります。指導者はそれぞれの環境学習に適したチェックリストを作成するように心がける必要があります。

チェックリスト作成時には、87ページ以降に記載されている参考資料や関連書籍、各団体のホームページなどを利用すると効果的です。